


## 令和4年度「大阪文化賞」受賞

<p>しおた ちはる 塩田 千春</p>	<p>50 歳</p>	 <p>Photo by Sunhi Mang</p>
<p>分野：芸術（美術）</p>		
<p>現職：美術家</p>		
<p>《受賞理由》</p> <p>氏は大阪出身の美術家で平成8年よりドイツを拠点に、国際的に活躍されてきました。</p> <p>身体性を際立たせる初期のパフォーマンスから一貫して、生と死という人間の根源的な問題に向き合い、「生きることは何か」「存在とは何か」を探求し、糸で紡ぐ大規模なインスタレーションを中心に、立体、写真、映像など多様な手法を用いた作品を制作されてきました。</p> <p>なかでも、展示空間に糸を縦横無尽に張り巡らせるインスタレーション作品は、その場所やものに宿る記憶といった不在のものの存在をみごとに表現し、その独自の世界観は、国際的に高く評価されています。</p> <p>この一年は、ヨーロッパ、オセアニア、アジア等世界各地で大規模な個展を開催するとともに、日本国内でも、精力的に活動され、郷里の岸和田市では「塩田千春展 Home to Home 家から家」を地域一体となって開催し、多くの注目を集めました。</p> <p>このように、氏の活躍は、大阪の文化の発展に寄与するとともに、国際的にも高く評価されていることから、大阪の文化振興への貢献は極めて大きく、今後の更なる活躍を期待してここに大阪文化賞を贈ります。</p> <p>（インスタレーションとは 作品を単体としてではなく、展示する環境と有機的に関連づけることによって構想し、その総体を一つの芸術的空間として呈示すること。）</p>		

## 《略歴》

- 昭和 47 年 (1972 年) : 大阪府に生まれる  
昭和 63-平成 3 年 (1988-1991 年) : 大阪府立港南高等学校 (現大阪府立港南造形高等学校)  
平成 4-8 年 (1992-1996 年) : 京都精華大学[洋画専攻]  
平成 5-6 年 (1993-1994 年) : オーストラリア国立大学スクール・オブ・アート  
平成 11-15 年 (1999-2003 年) : ベルリン芸術大学  
平成 27 年 (2015 年) : 第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 (イタリア) 日本館代表作家として選出される  
令和 2 年 (2020 年) : 多摩美術大学 EWS 特任教授

## [主な展覧会]

- 平成 20 年 (2008 年) : 「塩田千春 精神の呼吸」国立国際美術館 (大阪府)  
平成 27 年 (2015 年) : 「掌の鍵」第 56 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 (イタリア)  
平成 30 年 (2018 年) : 「時を超えて」ヨークシャー彫刻公園 (英国)  
「身体化したかたち」南オーストラリア美術館 (オーストラリア)  
平成 31 年 (2019 年) : 「塩田千春展：魂がふるえる」森美術館 (東京都)  
※過去最大規模の個展となり、延べ 66 万人の入場者数を記録。以降、韓国、台湾、中国、オーストラリア、ジャカルタなどアジア太平洋地域の国々を中心に巡回。  
令和 2 年 (2020 年) : 「時間の交錯」ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ (ニュージーランド)  
「永遠の糸」岸和田市立文化会館 マドカホール (大阪府)  
令和 3 年 (2021 年) : 「境界をたどる」エスポー近代美術館 (フィンランド)  
令和 4 年 (2022 年) : 「多様な現実」システアナ美術館 (デンマーク)  
[森美術館巡回展]「塩田千春展：魂がふるえる」クイーンズランド・アート・ギャラリー/ブリスベン近代美術館 (オーストラリア)、ヌサンタラ近現代美術館 (インドネシア)  
「国際芸術祭あいち 2022-STILL ALIVE」一宮市内 (愛知県)  
「Manifesta 14」プリシュティナ (コソボ)  
「塩田千春展：巡る記憶」別府市中心市街地 (大分県)  
「塩田千春展 Home to Home 家から家」岸和田市自泉会館 (大阪府)

## 《受賞歴》

- 平成 19 年 (2007 年) : 咲くやこの花賞 (美術)  
平成 20 年 (2008 年) : 芸術選奨文部科学大臣新人賞  
令和 2 年 (2020 年) : 毎日芸術賞